

## 母の葬儀

### 母が倒れる

10月6日（月）朝6時10分前に目が覚めて階段を降りて玄関にいくと、居間に電気がついていていた。ベッドの上には母は寝ていない。手押し車はベッドの脇にあり、トイレにもいない。まさか座敷にいるはずはないが、座敷にもいない。おかしいなと思いつながら、居間に入って驚いた。母が倒れていた。玄関からはベッドのかけで見えなかったのだ。口から血を出したあとがある。色は茶色だった。血のなかに白い痰のようなのがみえた。これは倒れてすぐではない。抱きおこしたら、あたった。目を閉じて眠っている。呼ぶとかすかに反応したように感じた。大声で喜美子を呼んだ。救急車のために電話に走ったがうろたえて110をまわしている。真保さんの電話番号が目に入って、最初にかけたのはk l c sだった。難波さんが泊まっていて、真保さんの家の電話番号を教えてくれた。真保さんにはかけずに、小林医院にかけた。6時にはだれもでないと思っていたが、小林先生がすぐにでた。すぐ往診してくれると言った。母のしもを換えて小林先生を待つ。母はベッ

ドにあげずに、絨毯の上に寝かしたままにした。6時30分車で先生が到着。血圧をはかり脈を数えて、湘南中央病院に電話をかけて、受け入れを頼んでから119で救急車を呼ぶ。荻田隊がすぐにきてくれた。病院の医師あてに小林先生が便箋に書き、もたされた手紙には吐血（喀血）のこととふだん飲んでる薬の処方があった。「遺言をあげなければいけませんか？」とたづねたら「まだいいでしょう」と冗談まじりの会話をするぐらいたったので長期入院かともおもった。

家に鍵をかけて救急車には喜美子も乗った。通い慣れた路で7時に着いた。若い岩崎（？）医師はなすすべもなく、入院手続きの指示をして、東棟2階の監視付きの部屋へ運んだ。

衣類をとり母をのこして家にかえる。病院から電話すぐきてくれ。駆けつけると、佐藤先生（この前お世話になった）から、「CTを撮った。クモ膜下出血で脳外科に移す」と。またも救急車をよんで藤沢脳外科病院に全員移動。湘南中央病院の婦長は救急車に看護婦をつけることを忘れない。

11時30分 院長の数野先生から事態はきびしい、手術はできないと言われ渡される。201号室に寝かされる。部屋の名札には重体を示す赤丸がついていた。ま

えに私が交通事故で運ばれた病院だ。婦長の前田さんの顔も見覚えがあった。

郷生、直紀、尚子、清子、真保さん、平林さん、真崎さんがかけつけた。清子は生まれて1ヶ月にもならない千里をつれてきた。しかし昏睡状態だったので、千里を病室にはいれなかった。足の裏をこそばすと片方だけがぴくつと反応した。その夜は母を残して全員鶴沼海岸の家で待機した。

10月7日

2階3部屋に千里をいれて7人が寝ていた。朝の目覚めはいつもより早かった。ベルの散歩をそこそこに、自転車で脳外科にむかったのは6時すぎだった。なぎさ荘の方角に道のやや左に朝日がまぶしくのぼっていた。江の電鰯沼を経て病院に着いた。病室の前におかれたデイスプレーモニタは血圧195で動作していた。昨夜はゆかたを着ていたが、汗が激しいのかぬがされていた。ベッドのよこで村岡さんからの手紙を読んでいた。ときどき1階のロビーの待合室に下りてみる。2、3人がテレビを見ている。看護婦さんや医師の出勤がはじまる。8時半から脳ドックの呼出しが始まる。脳ドックのパンフレットをみると、保険がきかないので1日コース7万円、1泊コース15万円となっていた。

9時頃数野院長の回診。昨日の様子は非常にきびしかったが、今日は幾分落ち着いている。この言葉をどう解釈すべきか？ お見舞いにくる方が、ついでに脳ドックの検査をうけるのも由とみて、あいている最もはやい日である13日を予約した。さしあたり福井百合子の名義にしておく。脳ドックの昼食はさすがにデラックスだ。和食なら御代川の懷石弁当、洋食ならビストロラシャンブルのフランス料理だ。昼前に自転車で散歩。その間に一善叔父と安子叔母がきていた。院長から説明をうけたとのこと。一善叔父は明日からインドネシアに1週間の出張だ。

足の裏をこそばしての反応は昨日より少なかった。1時タクシーでビストロラシャンブルに向かう。脳外科のランチを頼んだ(3000円)。魚は鰯だった。藤沢駅に送ろうとすると、安子さんがもう一度母にあいたいというのでまたタクシーで病院へ戻った。

病室の前にあつたデイスプレーがなくなっている。これはとのぞくと母の顔に白い布がかぶられていて、脇に百合姉、聖子姉、それに喜美子がいて「どこにいったのか」とたしなめられる。

姉達がついて、母の息づかいがおかしいのに気づきナースに連絡してくれて、心臓マッサージをうけた。電話で喜美子もよんでくれた。喜美子は近くのうどん屋に

母の葬儀 2

私がいなかさがした。私に臨終を間に合わせようと、医師達ががんばってくれたが、2時6分息がとどえた。私は15分遅かった。

### 枕経

遺体は医師看護婦のお見送りをうけ、湘和の車で家に戻った。6時半永勝寺の住職の娘婿が枕経をあげにきてくれた。「故人は香典や御供えを辞退するようにといったので、御布施もなくてよいか」といったら「それはきびしいですな」とかえってきた。母がなくなってから初めてのジョークだった。

お焼香お通夜に、村上勝美、寿子、千田

パイニー10月11日（土）

### 棺桶

出棺は10月9日12時だった。8畳の座敷の仏壇の前に飾られた小さな祭壇をうごかして、頭を北にしておいていたお棺をあけて、故人のすきなものを入れた。私はブリッジの本一冊と醤油豆一袋と百人一首かるたを用意していた。

ブリッジの本は10年前の1988年に私が書いて東京書店から出版したデュープリケートブリッジ入門で、その巻頭には「昔母からナポレオンをならいました。いまからブリッジをはじめる母にこの本をささげ

ます」と書いてある。母はこの本に従って、2、3度家でレッスンをきいてもらったが、ついに近くのブリッジクラブにデビューするにはいたらなかった。この本はあわてて刷ったためにミスプリントが多く、今ごろ向こうでよんで、誤字脱字にぼやいていることだろう。

醤油豆は定期的に四国高松から送っていた。ただ、まだ食べきれなかった一袋だった。とにかくふるさと讃岐のものは、まずくても好んで食べていた。夏にカートン買いをした八十八のところんはまだ冷蔵庫に3袋残っている。讃岐うどんはうまいと思うからわざわざ送らなくてもスーパードで買っている。

百人一首かるたは用意したが、いれるまえに坊さんが「故人が愛用したものは残しておいてみんなが使うのがよい。とくにこのかるたはもつたいない」と云ったので入れなかった。私はお棺を花でうめたあと、かるたをばらまくパフォーマンスをやってみたかったのだが。崇徳院の歌「せよはやみ……」はおはこだった。1枚札の戦略的に重要な札である以外に崇徳院が讃岐にながされて、国分のちかくの綾川で詠んだせいかもしれない。

ヘルパーの平林さんはヘヤーブラシがいるといって、鏡台の引き出しからさがしてきた。

納棺の儀式は前の日の10月8日11時30分だった。その日は朝から事務所にこもり、母ふみ子のメモ

ランダムを作文していた。納棺の時刻なので、家に戻ると座敷と縁側が片づいていた。雪見障子ははずされ、入り口の半間のドアは蝶番からはずされていた。子供たちが気づいたのだろう。遺体は仏壇の前で北枕で寝かしてあった。この8畳の間には南の窓の上に菅盾彦の額があり、枕もとには屏風が上下さかさに置いてあった。額は義士淀川上りの図で、屏風は田能村直入の筆なる色紙6枚はり込みの四枚折れである。私の祖父竹三郎が入手したもので、残っている数すくない美術品あることを母は大事なノートに記してあった。床の間には、日頃かかっていた日々是好日をはづして、故前田謙三さんが写経した南無阿弥陀仏と仏説阿弥陀教の掛け軸に替わっていた。縁側の隅には父太三郎のブロンズの胸像があり、死に場所としてはこれほどの贅沢はないだろう。納棺には、喜美子、子供たち夫婦、百合子姉、笹倉の兄が手をかした。

平成九年十月

### 母 吉川ふみ子のメモランダム

ついにくるべき日がきました。年に不満はないというかもしれませんが、昨日の別れは残念でした。享年90才でした。リウマチで手足の痛さに苦しんでいた2年でしたが、10月6日クモ膜下出血で一瞬にして昏睡状態に陥り死の苦しみは望みどおりになりました。

私と母とのつきあいは61年で、私の知らない母の前半生を私に話してくれるかたもわずかになりました。

母は大川清 きくえの長女として、名古屋で生まれました。清が医学生で、名古屋で住んでいたのでしょう。しかし香川県綾歌郡端岡村国分で医者 of 長女として育ち、延子、貞子、清一、一善と続きます。一善叔父とは19も離れているから親のような姉でしょう。高松の県女から京都女専に進みます。清は医者 of 養子を母に期待したのと、縁遠うかつたのとで、27までハイカラ生活をしていたようです。わたしに麻雀や花札を教えたのもそのころの生活のせいでしょう。

父吉川太三郎との結婚は昭和9年、私の誕生は昭和11年1月、太三郎没が11年9月8日ですから、2年間の結婚生活でした。淀の水女学校と此花商業の私学を経営する父との結婚は1回の見合いで決めたやけくそ気分だったようです。太三郎の父竹三郎、妻いと、百合子（14才）、聖子、不二子・正三、武雄、千代造、綾子、の在所帯のきりもりが始まるのはあの性格のせいでしょう。この舞台が大阪の長柄です。戦争中の昭和19年に強制疎開で、相川に移ります。その頃第一善、従兄弟の一番さんが下宿していました。

売り喰い生活も底をつき昭和25年、相川文具点を始めます。最初はお茶と文具でした。文具には丸亀の田

岡屋が参考になった。その前に終戦で戦地から帰ってきた叔父たちと吉川製釘所をいまの新大阪駅の真下で始めますが、失敗します。

正三、武雄、千代造、綾子、百合子、聖子、不二子の内武雄は恋愛でしたが他はすべて見合いでその取り仕切りはプロ級です。

私竹四郎の扱いは特別でした。四国からの女中さんを付けたり、甲南中学へ通わせ、大学時の京都に下宿させるなどなど。私への期待が大きかったのは、私にとってはブレッシヤでしたが、高校2年の時に発病した肺結核の病弱であきらめもあったようです。卒業後は大学の先生にとも考えましたが、薬の進歩で元気になる就職することになり、日本初のコンピュータ（東京の三菱原子力）に決まり、昭和37年に上京する時は時自分の行動範囲が増えると言って反対しませんでした。細井さん、青山さん、和彦さんらの店の人たちとの生活は34年頃から始まります。

相川の家の処分、水無瀬のマンションの売買、土地の切り売り等の不動産の売買時の慎重な判断はまわりから親分扱いされたようです。

ここ藤沢に私達が移ったのは昭和62年秋、母は水無瀬をたたんで63年に、この部屋で暮らします。友達が

おおく、女学校のクラスメート、女専のクラスメート、

成蹊短大の生徒さん、店の文具関係、僕の友達（私とは音信不通）、親類付き合いなど年賀状、冠婚葬祭の贈答の律儀さは明治女です。最後に浄土真宗の信心は俳句と並んで特筆に値します。この母が極楽にいつていないはづは有りません。希望どうりに長柄のお墓に60年遅れで太三郎の横に寝かしてあげます。

合掌

#### 死亡通知

母ふみ子が十月六日早朝自宅で、くも膜下出血で倒れ昏睡状態に陥り、七日藤沢の病院で息を引き取りました。享年九十才でした。

故人のお願いによつて、家族のみで九日葬儀を相済ませました。親戚、友人たちには初七日の後にお知らせするようにのことばのままに、また香典、供物もいたたかないようにと書かれておりました。その意志をくんでどうぞお心使いないようお願い申し上げます。

生前のご厚誼を深謝し衷心より御礼申し上げます。

喪主 吉川 竹四郎

平成九年十月

なお 11月23日（日）大阪長柄の光明寺で四十九日のお参りをしてから長柄の墓地に納骨する予定です。  
tel 0466-30-1466 〒251-0037 藤沢市鵠沼海岸 6-1

6-4

湘南中央病院 今井重信先生へ

1997.10.14

母が先生に初めてみていただいたのは、1年半前で  
しょうか。障害者手帖の申請のために、東海岸の奥先生  
よりの紹介状をもってまいりました。そのときの診断は  
「障害者とは不治の病の人であって、治る可能性のある  
ひとには障害者手帳はだせない」とおっしゃいました。

母はなおらなくてもととと、この言葉を励みに治  
療に専念しました。以後先生にはステロイドの注射を  
ねだったり、プレドニンの増量をおねがひしたりしなが  
らも、先生のいわれることを忠実にまもりました。リハ  
ビリの努力のために、寝たきりにならずに、ここまでよ  
く頑張ったとおもいます。

貴病院をはじめ、小林先生、民間介護会社鶴沼ライフ  
ケアサービスのヘルパーさんたち、若葉会の奥野さん、  
村岡ホームのかたがたに治療、介護に大変お世話にな  
りました。私自身、今社会問題となっている福祉と介護  
にかんじていい経験をさせていただきました。厚く御  
礼申し上げます。本来ならお礼の品を先生に贈りたい  
のですが、病院の貼り紙にしたがってひかえさせていた  
だきます。

そこで私のできる範囲で、福祉と介護の分野で社会  
に尽くしたい所存でございますので、ご下命ください。  
特にいま感じていることに

- ・ 藤沢市民病院の待ち時間の改善
- ・ 自治体の福祉予算を消化するために要する、一  
般会計からの職員や団体の費用総額の明示

- ・ 地方自治体の首長のリコール権は選挙で投票  
したものに限定する

などがあります。特にコンピュータとインターネット  
関係ではおちからになれると信じております。

ほんとうにありがとうございます。

湘南情報処理協会会員 吉川堂 吉川竹四郎

今井先生からの返事

前略

突然の御母堂の悲報に本当に驚いています。思い返  
してみますと私は吉川ふみ子さんの診察時間を楽しみ  
にしていたように思えます。私自身関西系の人間であ  
ることからくる心安さもありまた彼女の頑固さが二十  
年前に他界した私の母親にそっくりだったためのなつか  
しさもあり、ある意味では充実した時間を持たせてい  
ただいたことを感謝しています。

今後の医療や福祉の分野では試験錯誤の時代に入る  
と思いますが貴兄の心意気は心強く思っております。お

母の葬儀 6

互いに藤沢をよりよくすべく頑張りました。

平成九年十月十五日

今井重信

### 淀の水と此花

吉川家の古い事を調べた吉川五郎氏でさえ淀の水の初代校長を芳三郎と思っていたが、いろいろ調べてみると、大正十三年に淀の水を設立したときは、吉川以外の人が校長をしていた。その後長男の太三郎が二代校長をして、昭和四年に此花ができて、太三郎が此花に移ったので、芳三郎が第三代校長となった。

大正十三年は太三郎二十四才、芳三郎二十一才のため教員の資格がなかったのかもしれない。

しかし、職員等の確保に児玉輝彦氏がその当時から助けていた形跡がある。児玉輝彦氏は太三郎の妻吉子の兄であり吉子が太三郎より四才年上だから三十才の働きざかりであろう。児玉家は鹿兒島の士族であった。小使いの松本さんまで鹿兒島から呼んでいる。

そのころ芳三郎は紀州の士族西岡家から嫁喜代子をもらう。そして住吉に分家して屋敷六棟をもつ。つまり五軒の借家がついていた。

竹三郎は長柄で合資会社吉川毛織で、鐘紡からただ同然の切れ端を仕入れて、これをゲートルにして、大阪にあった第八連隊に納品してぼろ儲けをしていた。この

会社は個人経営の吉川帽体にかわり、帽子のフェルトを製造する。これが支那への輸出であたる。これらの工場跡地に此花商業ができるのだが、この職種替えは儲けのピークを感じるや、安全な蓄財のためと思われる。竹三郎の先祖が和歌山海南市黒江で漆器で儲けたが、紀州藩にほとんどを吸い上げられた苦い経験からくるもので学校法人にして残したかったのだろう。

昭和七年の太三郎は此花の校長をしながら、関西大学の文学部哲学科で、少なくとも週二日は通学していた。総合報告形式の論文でカントの研究をしている。

淀の水は此花区の西島（トリシマ）にあつて、淀川の河口に面したところで、長柄から通学した人によれば、市電で桜橋で乗換、春日出車庫行きの終点まで乗り、北港大橋を渡る徒歩二十分の道のりだった。学校の裏で潮干狩りが出来たそうだ。

1997.11.6

### 京都女專のクラスメートの御皆々様へ

母の小言が聞こえなくなりはや十日、いささか淋しくなり申し候。皆々様と母ふみ子とのお付き合ひ、小生の生まれし前からのこと推しあげ候。長きお付き合ひ、おもに筆のたよりかと存じあげ、今となりれば、文通魔とおもえし母にて候。

母が残せしメモ「死後ただちによむべしお願い」にはかく記されており候。竹四郎は年賀状をださぬものゆえ、通常の喪中がきはおかしからう。初七日を経てから、死亡通知のかたちでしらせ。長き間の厚誼を謝してむすべしと。そしてしらせるかたがたの年賀状を、女学校、女専、文具、成蹊学園、そして一般と分類されており候。して女専の山には、高田ヨシ子、高橋法子、藤本悦子、池内よしえ、吉川美佐、塩見よしこ、山下光子、佐久間静子、小林ふじ一（敬称略）のはがきあり申し候。このほかにわれ子供心に覚えし名前に、前田のぶこ、浅野房子、磯川きよこなどあり。

母がのこせしものに、質はいざ知らず、莫大な量の俳句あり。母これを句集としてのこすこと望まず。この取り扱いに困りはて申し候。これらの句おもに丸山海道、佳子氏主宰の京鹿子への投句かとおもはれ候。母車椅子になりてからは、京都火鏡句会にだすために、長谷淑子さま宛に取り次ぎ願う手紙の投函のみのまれおり申し候。われこの世界のことしらず、たれに礼を申しあげるべきか、また会費とうのたてかえあるやもしれず。昭和九年の母の日記帖いとおかし。元旦は京都にて祇園まいりして、暮れには結婚後のいそがしきことあり。あわただしき見合い結婚の間にあるとおもえる。またその年は風水害あるともしるされおり候。母この

頃の話しあまり語らず、いまとりては皆様の口よりきほかはすべなし。日記帖にあらわれしお友達の名は旧姓かも知れず。たれかこの名教えくだされば幸いと存じあげ候。

母百歳までとねがいが、果たしなき残留分、皆々様に加えられんことお祈り申し上げ候。

乱文ゆるしあれ

追伸母おきにいりの句

臆夜や骨までしゃぶる瀬戸の味

啓室やシルバーホームの預け解け

春暁の正夢なれや初ひ孫

平成九年十月十七日

吉川竹四郎

香川県高松女学校鳳窓あ皆々様へ

一部置き換え

して女学校の山には、細谷峰子、鎌野順、中島あきこ、増田君子、小木原清子、生島孝子、小汐逸子、伊藤力ネ、豊辺幸子、請川カツ（敬称略）のはがきあり申し候。

ここ藤沢は湘南海岸の町にして、氣候温暖、小生にはこの上のなき住みよき処にて候が、母にとりては、讃岐は天の極楽に次ぐ処なり。皆々様より贈られる、讃岐う



どんはさりとて、瀬戸内の味、醤油豆、八十八のところ  
てんなどありがたうお相伴されていたき候。同じ品  
スーパで求め得しも、わざわざ送ってくださる品の有  
り難さ、故郷を持たぬ輩には理解できぬことにて候。

### 七七忌と納骨

1997.10.25

釋尼慈恵（吉川ふみ子）七七忌と納骨の御知らせ

下記の要領でお願いしますのでよろしく願いま  
す。

日時 平成9年11月23日 午前11時ごろから

場所 光明寺…大阪市北区（元大淀区）長柄西2-12-5

（光明寺内には駐車場があります）tel 06-331-4081

菅純和（住職）阪急電車天神橋筋六丁目駅□出口を

出て、大和銀行角左（北）、突き当たり右（東）すぐ徒

歩12分

スケジュール

11…00 受け付け、光明寺

11…30 釋尼慈恵四十九日法要読経（約1時間）途中休憩

無量寿経と正信偈 光明寺2階本堂

12…30 墓地へ移動（約500m）

12…50 納骨の儀 大阪市北霊園74番地の墓光明寺へ移動

13…00 仕上げとお別れの会

光明寺1階の広間仕上げの広間は40人位の席が用  
意されています。

案内送付先一覧（敬称略）

・文具と本の関係

西川茂、藤岡勉、下堂千鶴子、久保田美津代、村岡美

津恵、阪口清子、安藤きく、青山貴子、藤戸美由喜、細井

輝男、○恵美子、整

・句友 山下光子、浜田敏江

・相川時代のお友達

井上兼子、一、直子、満藤、小松原英夫、鶴岡純吉若

林マツエ、浅野、前田、木曾武雄、大塚修、久本炭三郎

・親戚

吉川喜代子、益子、美恵子、○五郎、守、あさこ、吉

川正三、○登久子、高橋都、石倉薫、吉川清、尾嶋昭次

○吉川貞子、武、坂本洋子、西尾綾子、通卓、治郎、八

鳥亨治、恂治、塩田妙子、野口千鶴子、中村節子、千田敏

夫、和彦、多香子、香代子、治、前田とし子、林満喜

子、飯田宏岡山の鈴木家、吉祥寺の飯田家、磐田の寺田

家、四国の村上家、大川家

・兄弟

○大川一善、安子、松尾和子

・孫 吉川直紀、尚子、○郷生、清子、千里、福井

陽子、啓朗、旭、笹倉温子、森本知子

・子 福井百合子、笹倉聖子、光雄

出席の方は、○印の方に11月15日までに御連絡  
してください。

喪主 竹四郎 喜美子

P.S. 私は藤沢から私服でまいります。 お

墓のことは植木茶屋の西田さん (06-358-5919) にお尋  
ねください。 お寺は鉄筋コンクリートです。

## 水無瀬

私をはじめ水無瀬に行ったのは高校1年の夏だった。「わたしはまだ岡本に住んでいるころの……」ではじまる谷崎潤一郎の小説『芦刈』と関係する。北野の島内先生(温泉)の英語のテキストが英訳の芦刈だった。しかたなく原本の芦刈を読まざるをえない。そこでの有名な見渡せば山もと霞む水無瀬川夕は秋となに思  
いけむがあらわれる。相川の家でこの歌を勉強しているのをみたのだろうか、母がある日の午後、水無瀬へわたしを誘った。そのときは淀川に渡し船があり、それに乗って対岸の町橋本に行った。橋本は遊廓であり、当時は赤線の町なみだった。親類のものにあつたのだろう。話の内容は覚えていない。とにかく『芦刈』の登場人物  
気分で散策した夕だった。

水無瀬が後鳥羽院のゆかりの土地で、定家の百人一首の源であることは後にしるのだが、母は王朝文学だす  
きだったから、昔からここに目をつけていた。相川の家  
をたたんで一人でマンション暮らしをするとき、迷うこ  
となく住友の水無瀬ハイムにきめた。5棟あつて、プー  
ルもあつた。1号棟の105は1階の庭つきだった。

水無瀬をご存知ないかたのために、水無瀬を紹介す  
ると…そこは京都と大阪の境にあり、桂川(京都から)、  
宇治川(滋賀から)、木津川(奈良から)の3つの川が  
ここで合流して淀川となる。水無瀬は淀川の右岸にあ  
り、車窓の風景としてはサントリのウイスキー工場のと  
ころである。山崎の合戦でしられる天王山、楠父子の別  
れでしられる桜井の駅、水無瀬離宮跡の水無瀬神宮が  
近くにある。

水無瀬は大阪府三島郡島本町にあるが、電話は(075)  
の京都扱いだった。

水無瀬に訪れたかたがたは5冊のアルバム水無瀬日  
記(1-5)に写されている(1982.11-1989.1)。私の  
姿が少ないのはこのころ忙しかったのか。長柄、相川そ  
して水無瀬と越してきた大きな仏壇も水無瀬をたむ  
とき福井の前田謙三(故)氏にひきとっていただき吉川  
家からはなれた。

## 御挨拶

本日は母ふみ子の四十九日法要と納骨に御参りくださいます、ありがとうございます。

法名：緯尼慈恵

俗名：吉川ふみ子享年 88 才

葬儀と納骨につきましては、ほぼ故人の希望どおりになったと思っています。故人の意志とは申せ、皆様のお心にそぐわないところあり、相済まないと思っております。藤沢に越して母との付き合いでここ 2 年近くは、福祉と介護の分野でいろいろな経験をさせていただきました。整形外科の病院をはじめ、市内の医院先牛民間介護会社のヘルパーさんたち、自治体の介護機関の方々に治療、介護に大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。それ以上に御礼を申し上げなければならないのは、大阪での長い生活で皆様にお世話になりました。ほんとうにありがとうございました。

今後私たちは、福祉と介護の分野で社会に尽くしたく、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

平成九年十一月吉川竹四郎

なお母のホームページを今風に作りました。お気軽にご覧下さい。

## 四十九日のお礼

昨日は大阪長柄の光明寺に遠路お参りくださいまして有り難うございました。皆様に久しぶりにお会いできたのも、故人の引き合わせと感謝しています。光明寺の住職さまのお話しにもありましたが、ここ長柄は和歌山から身をおこした祖父竹三郎が住みついたところで、父が育ち、母が嫁ぎ、私が生まれた土地なのです。光明寺は古くからあるお寺で、昨日の住職さまの祖父が父太三郎とおさななじみ、住職さまのご母堂さまが不二子姉とおさななじみ、そして母は光明寺の三代にお世話になっていましたので、昨日の法要は母の望み通りだったのでしょうか。

その長柄について、今日読んだことを冒説明させていただきます。法要の翌日、天気も良かったので奈良の飛鳥を散策しました。藤沢にもどって飛鳥時代の古代国家のことを歴史の本で読んでいたら、大化の改新の頃に難波長柄豊崎宮に都を移したことが日本書記に書いてあります（私の小学校は長柄の豊崎小学校でした）。長柄豊崎宮は規模も心さく短期間であり、いまだに確かな場所は見えていない。地名の一致を理由にこの光明寺周辺を長柄豊崎宮とする説、地名はしばしば移動するので上町台地とする説などがあった。大阪城外壕の南の法円坂の地域で奈良時代の瓦が発見されたのをきっかけに難波宮の発掘が昭和 36 年ごろおこなわれ

て、長柄豊崎宮もこのあたりではないかとされている。  
（中央公論社日本の歴史に直木孝次郎著）遠い昔のおはなしでした。

それでは皆様お元氣でお暮らし下さい。お参りのお礼まで

初盆その目の句会で母へ思慕ひたすらつゝのる蟬時雨  
母慕う供花百合の香の強きほど地酒提げ参上したきと  
初盆に福井百合子桐たんす寝てみつ部屋初盆や少言  
忘れの仏かな釣れぬのも初盆のためとみおさめの秋桜  
咲くもちもちばばよ千里

#### お礼の手紙

母ふみ子の一周忌は四国讃岐で秋晴れに恵まれた10月3目に賑やかに行えました。弟の大川一善さんからひ孫の千里くんにいたる〇名が国分の蓮光寺に集まりました。特に大川家ゆかりの方が大勢みえられました。皆様のお心づかいまことにありがとうございました。とくに、現地での準備に千田敏夫さん村上勝美さんに大変お世話になりました。都会では経験できなかったつづり2時間の三部経をゆつたりとした本堂でかかせていただけました。蓮光寺は江戸時代の享保年間といえますから250年の歴史の本堂はさらに感激的でした。国分は昔と変わらぬ風景でした。駅は無人駅となつてさびしく感じましたが道路がよくなり交通は便利になった

のもモバイル時代のせいでしょうか。空港でレンタカーを借りても、カーナビがついているので、道を知らなくても、屋島や五色台に容易にゆけるのも時代のおかげです。12年前に母〇遭れられて泊まった五色台の写真があつたので、代替わりの撮影もいたしました。藤沢にお供えをお送りくださった方々にも篤く御礼申し上げます。ほんとうにありがとうございました。大川、村上そして千田家のかたがたには、当日アップデットした家系図をクラリスインパクトでプリントしましたので同封いたします。10月7

〒251 0037 藤沢市鵜沼海岸6-16-4

吉川竹四郎

母の葬儀 12